

5. 三河港の将来像に向けて

5-1. 三河港の将来像に向けて

【三河港を取り巻く近年の情勢変化】

1. 三河港を取り巻く近年の情勢変化

- ・港湾の中長期政策「PORT2030」の策定（H30.7月）
- ・「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」の抜本的な見直し（R元.6月）
- ・「農林水産物輸出インフラ整備プログラム」の策定（H28.11月）
- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」の策定（H28.3月）
- ・伊勢湾・三河湾 LNG バンカリング事業の採択（H30.6月）
- ・伊勢湾再生行動計画（第二期）の策定（H29.6月）
- ・三河港神野・明海地区エリア減災計画の策定（H31.3月）

2. 三河港の概況

- ・三河港の立地ポテンシャル
- ・広域計画における三河港の位置づけ
- ・他港との比較による三河港の特性
- ・三河港の歴史的発展経緯

三河港の現状

【物流】

- 完成自動車以外の主要貨物がなく、貨物量が伸び悩み
- 環境関連産業が進出・集積。同時に新たな動きに対する港湾機能が脆弱
- モータープール用地の不足
- 完成自動車と一般貨物が混在（神野地区）し、荷役・保管が非効率
- コンテナ貨物の三河港利用割合が低下
- 自動車専用船・コンテナ船の大型化
- 低利用・未利用の岸壁が多く、老朽化が著しく進展
- 安全な荷役のための静穏度が不足（神野地区）
- 港湾関連車両と一般車両の混在による国道23号の渋滞
- 高規格ターミナルの展開が活発化
- 愛知県港湾物流ビジョン等による様々な構想を策定
- トラックドライバー不足を背景とした内航定期航路開設の動きが活発化

【産業】

- 背後は自動車産業が集積するが、当産業以外の新たな産業が見えにくい
- 企業用地の不足
- 三河港背後は全国屈指の農産物産出地域

【人流・交流】

- 多数の観光施設（資源）等がある一方で、施設間の回遊性不足
- クルーズ船が寄港（蒲郡地区）、国内へのスーパーヨットの寄港

【環境】

- 六条潟等の干潟が存在する中で海域環境の大きな改善無し
- 自然エネルギーを利用した発電所の立地が加速化

【安全・防災】

- 過去の災害で三河港では高潮被害が発生
- 大規模地震発生に対する港湾機能が脆弱

動 向

- 輸送の効率化や安全性の向上を目的とした高規格ターミナル（IoT・AI等の活用）の展開が活発化（PORT2030）
- 近年、人材不足や就業規則の厳格化を背景としたトラックドライバー不足への対応が必要（PORT2030・基本方針）
- H28から三河湾にクルーズ船が入港し、今後は超富裕層を対象としたスーパーヨットの受入れのための環境整備が必要
- 農林水産物・食品の輸出拡大に向けたハード・ソフト両面のインフラ整備内容を明示
- 三河湾・伊勢湾では LNG バンカリング拠点の形成を推進としてインセンティブ施策を実施
- 物流・産業機能が集積する神野・明海地区での高潮対策が必要

三河港のアイデンティティ

- 日本のほぼ中央に位置し、全国8位の広大な港湾区域を有する港湾
- 30年近く前から、世界屈指の自動車流通港湾として、その機能を十分に発揮している港湾
- 県内3港と連携した、中部の「ものづくり産業」を支える物流・産業港湾
- 自然環境資源（干潟、離島等）や観光施設等が多数存在し、物流や産業と調和よく形成された港湾

三河港の課題

【物流】

- 背後地の持続的な発展への貢献
 - ・完成自動車の取扱を確実に維持し、さらなる競争力強化への対応を図りつつ、集荷・創貨による新規貨物取り込みへの対応（農産物、再生可能エネルギー関連企業立地、内航定期航路（RORO、フィーダー等）の誘致等）
- ソフト・ハード両面からの競争力強化
 - ・ふ頭の集約・再編による物流効率化及び適地での適正な利用
 - ・自動車専用船・外航コンテナ船の大型化への対応
 - ・未利用・低利用岸壁の有効活用方策の具体化
 - ・静穏度確保のための防波堤延伸
 - ・AIやIoT等を活用した、次世代コンテナターミナル整備への対応
- ボトルネックの解消（モータープール不足、交通渋滞、陳腐化、老朽化等）
 - ・完成自動車の需要に対応した効率的な保管のためのモータープール用地の確保
 - ・老朽化岸壁の維持更新等への適切な対応
 - ・物流の効率化及び安全性向上のための新たな交通体系の構築

【産業】

- 自動車産業の機能強化に加え、新たな土地の確保も視野に入れた新規企業立地への対応
- 農産物の輸出加工や保管に係る企業の誘致

【人流・交流】

- みなとへの市民のさらなる誘導や観光施設（資源）間の回遊性の確保
- クルーズ船・スーパーヨットの誘致及び受入れ機能・体制の強化

【環境】

- 良好な自然環境の回復・創造への継続的な対応（六条潟の保全・活用、人工干潟・緑地等の整備促進）
- 環境再生に向けた取り組みや再生可能エネルギーの積極的導入の支援

【安全・防災】

- 大規模地震発生時に対する港湾機能の強化
- 大規模地震対策以外にも、高潮対策等、自然災害発生に対する港湾機能維持への対応

背後市からの要請（総合計画より）

- ・国際競争力強化への対応（港湾施設など産業基盤の整備促進）
- ・新規コンテナの獲得及び関連企業の誘致
- ・自動車保管用地の早期整備の促進
- ・港湾機能向上のための交通アクセスの向上
- ・工業用地の確保及びエネルギー関連企業等の企業誘致の推進
- ・ポートセールスの支援・推進
- ・利用者ニーズに対応した港湾機能の充実
- ・計画的な維持管理によるサービス水準の維持
- ・海辺の景観形成やレクリエーション施設の整備
- ・地域の魅力づくりへの貢献（産業観光や広域観光の促進）
- ・再生可能エネルギーの利活用の推進
- ・災害時における海上物資輸送拠点としての機能充実
- ・自然災害に対する対策

港湾関係者からの要請

- ・荷主、船社に選ばれるみなとづくり
 - ⇨ AIやIoTなどを活用した物流の効率化
- ・企業に選ばれるみなとづくり
 - ⇨ 企業の運営の導入など企業立地環境の改善
- ・社会の変化に対応できるみなとづくり
 - ⇨ 低炭素・新エネルギー振興拠点の形成
- ・背後圏と繋がるみなとづくり
 - ⇨ 三河湾背後地との交通体系の強化
- ・賑わいを創出するみなとまちづくり
 - ⇨ 観光振興などによる人流・交流拠点の形成
- ・地域の発展に資するみなとづくり
 - ⇨ 新産業の振興による産業・生産拠点の形成

経済界からの要請

- ・ロジスティクスポート
 - ：国際自動車港湾として世界から選ばれる港づくり
- ・バリューポート
 - ：世界を見据えた連携と運営による価値創造
- ・セーフティポート
 - ：地域への安全安心の確保
- ・レクリエーションポート
 - ：魅力ある質の高い港湾空間の形成

社会・経済情勢の変化への対応

三河港の課題・背後市からの要請・港湾関係者及び経済界からの要請

三河港の将来像 検討にあたっての考慮事項

【物流】

- 更なる自動車流通港湾としてのあり方
- 三河港の国際競争力向上のためのあり方（完成自動車、コンテナを対象とした次世代ターミナル等）
- 完成自動車以外の港利用促進のあり方（新規貨物獲得のための集荷・創荷、企業誘致）
- 広域交通ネットワークの現状及び計画も視野に入れた背後圏設定のあり方
- 品目特性・物流需要・船型動向に応じた適正な港湾施設規模及び配置のあり方
- 低利用・未利用岸壁の有効利用のあり方
- 既存施設の老朽化への対応
- 物流の効率化及び安全性向上に資するための新たな交通軸（臨港道路）の構築
- 港湾サービス水準向上のためのあり方

【産業】

- 港湾や背後の特性を活かした新規企業立地のための支援や用地確保等のあり方
- 環境意識の高まりを背景とした自然エネルギーを活用した港湾利用のあり方

【人流・交流】

- 人々を港へ誘う更なる人流・交流機能のあり方
- クルーズ需要増加へのハード・ソフト面での対応のあり方

【環境】

- 干潟・浅場の造成などによる三河湾の環境再生や漁業活動と共生した港のあり方
- 住民にとって親しめる港湾空間のあり方
- 環境意識の高まりを背景とした自然エネルギーの積極的導入支援方策

【安全・防災】

- 大規模地震への対応として、中部の「ものづくり産業」の支援や住民の安全・安心を確保するための港湾機能のあり方
- 近年の異常気象に対応した高潮対策等の自然災害対応への港湾機能のあり方